

私大連フォーラム2019

高等教育政策と公財政支援

The Japan Association of
Private Universities and Colleges

建学の精神に基づく各会員大学の独自性と私立大学の多様性を保証し、
人類の未来に貢献する人間を育成するための基盤強化に資する。

事業報告

私立大学の教育の質向上の取り組み

2019年5月28日（火）

圓月 勝博

（私大連教育研究委員会委員長）

教育研究委員会 2018年度事業報告

①教育の質向上に関する調査

実施期間：2018年3月20日～5月14日

調査対象：会員大学121校

回答数：99大学（回収率81.8%）

②大学入学共通テストに関する課題等の整理

小委員会設置

③FD推進ワークショップ（新任専任教員向け [継続]）

FD推進ワークショップ運営委員会設置

教育研究委員会事業 ①教育の質向上に関する調査

平成30〔2018〕年12月（会員大学向け）

「教育の質向上の取り組みに関する調査」報告書

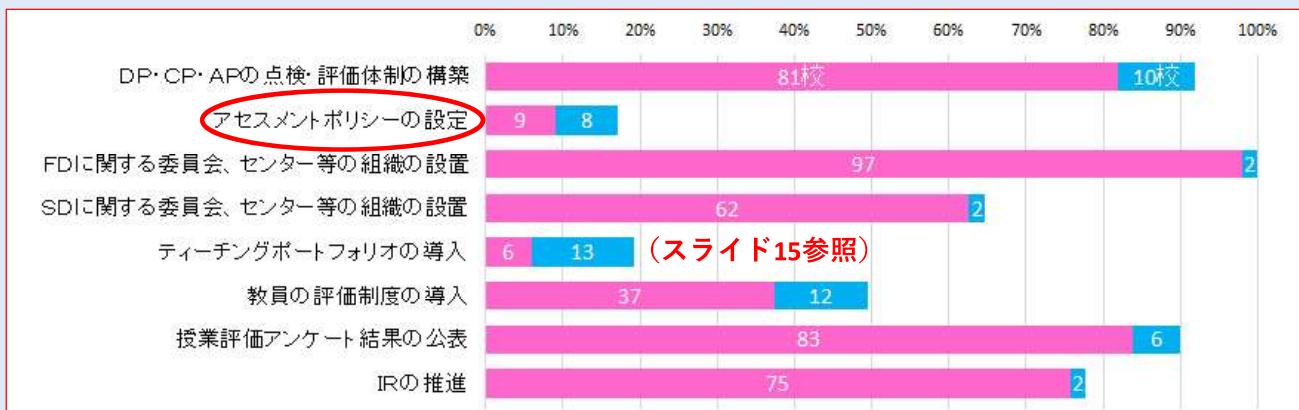
平成31〔2019〕年3月公表

「私立大学における教育の質向上に関する取り組み
～学習成果の可視化による大学教育の質保証～」

平成31〔2019〕年3月公表

「私立大学における教育の質向上に関する取り組み
－提言と新たな課題－」

教学マネジメント 調査結果（抜粋）



提言

第4の方針としてのアセスメント・ポリシーの策定

3つの方針の実質化が大学教育の質保証のもっとも重要な課題となっている。3つの方針が実質化しているかどうかは、「教員が何を教えたか」ではなく「学生が何を学んだか」という観点から検証しなければならない。そのためには、まず、学習成果をどのように組織的に把握しているかということが各大学に問われている。

そこで、第4の方針として、アセスメント・ポリシーを策定することを提言する。アセスメント・ポリシーとは、学習成果の評価方法を明文化することで、多くの大学で策定に向けての取り組みが始まったばかりである。評価方法については、色々なものがあるが、大学教育の多様性を発展させるという私立大学の使命を実質化するための方策として、個性豊かな建学の精神にふさわしいアセスメント・ポリシーが策定されることを期待する。

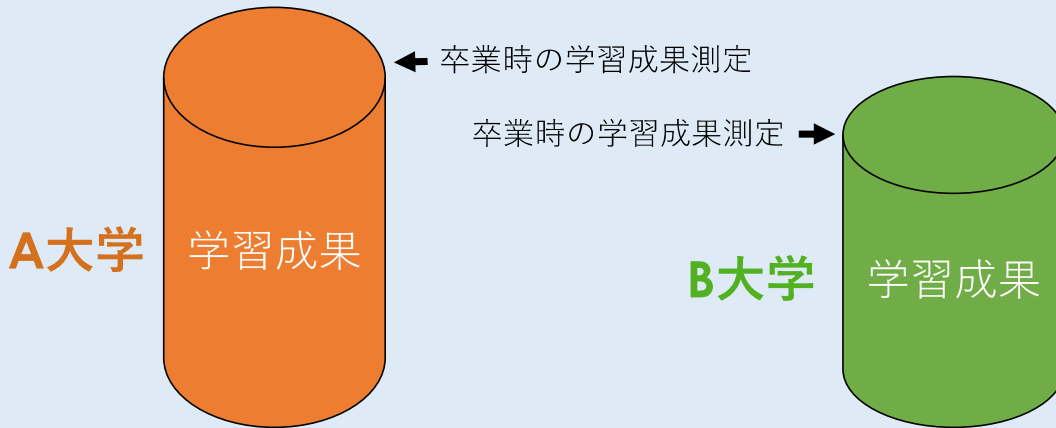
教育研究委員会事業 ①教育の質向上に関する調査

アセスメント・ポリシーをめぐる会員大学事例紹介

- ①「学びと**成長**調査」（立命館大学）
- ②「**学修成果**参照基準と卒業生アンケート」（國學院大學）
- ③「DPに掲げる**4つの力（22のスキル）**」（東北公益文科大学）
- ④「**学修成果**の可視化に向けた指標づくり」（関西大学）
- ⑤「9つの**成長**指標と地域連携」（四日市大学）
- ⑥「学修カルテと学生の**成長**支援」（広島修道大学）
- ⑦「独自制度による**多面的評価**」（甲南大学）
- ⑧「リベラル・アーツ教育の**学修成果**の可視化」（東京女子大学）

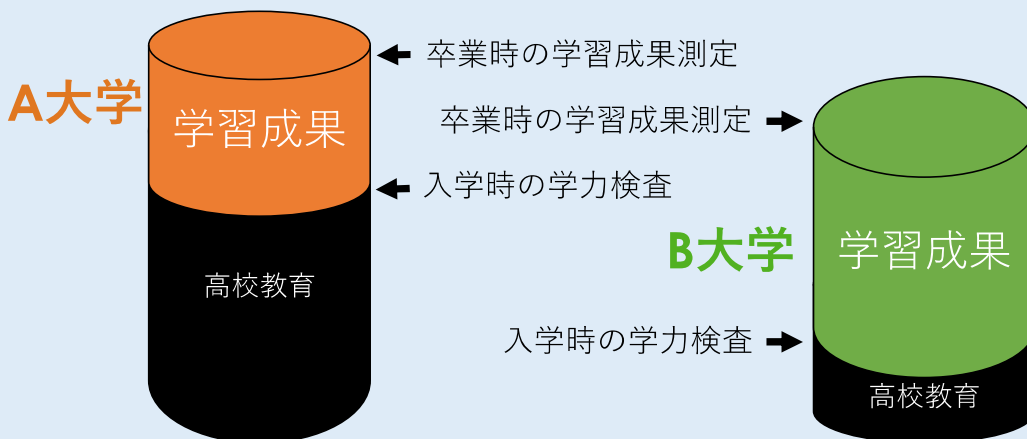
アセスメント・ポリシー 会員大学事例に学ぶ

学習成果の測定と可視化（事例②④⑧）



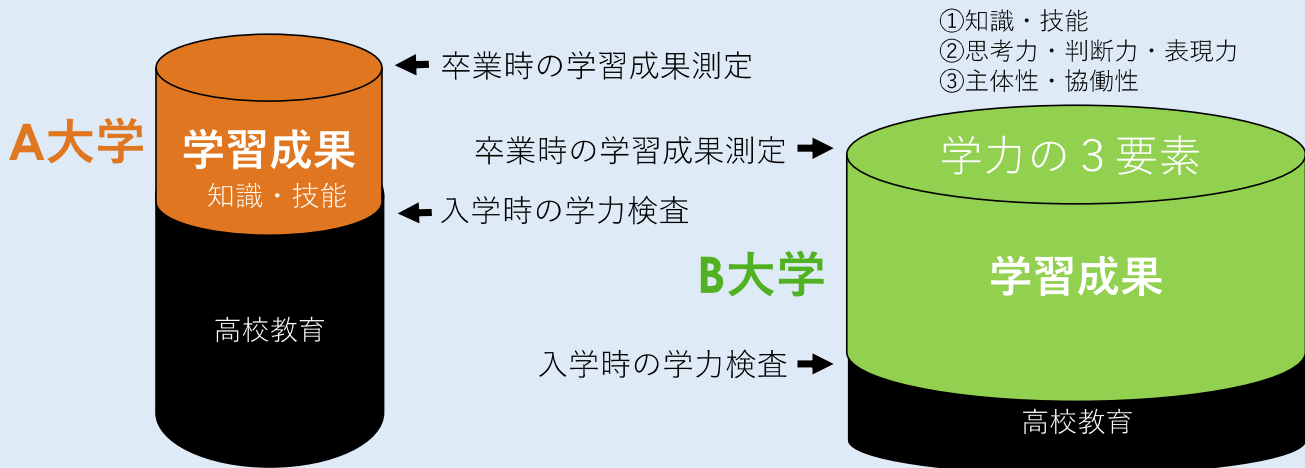
アセスメント・ポリシー 会員大学事例に学ぶ

学生の成長の測定（事例①⑤⑥）



アセスメント・ポリシー 会員大学事例に学ぶ

学習成果の多様性（事例③⑦）



教育研究委員会事業 ②大学入学共通テストに関する課題等の整理

学力の3要素の測定

- ①英語4技能資格・検定試験の導入および活用について
知識・技能
- ②記述問題の採用および活用について
思考力・判断力・表現力
- ③共通テスト実施に関する諸課題
主体性・協働性（調査書の活用方策）

「遅いぞ、わかりにくいぞ、私立大学！」 社会の声に謙虚に耳を傾ける

高大接続の推進と社会に対する説明責任

2019年3月4日

入試改革情報の公表状況—2月末現在の公表率は国立88%、私立16%

「Between情報サイト」

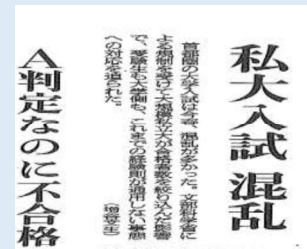
<http://between.shinken-ad.co.jp/hu/2019/03/2021nyushi.html>

2019年3月20日

私大から留学生が大量行方不明に～不法就労の抜け道か

石渡嶺司（大学ジャーナリスト）

<https://news.yahoo.co.jp/byline/ishiwatarireiji/20190320-00118940/>



『朝日新聞』2019年4月8日

新たな課題 1

スピード感あふれる適切な入試改革

「入試改革元年」を告げる2021年度入試まで残すところ2年弱となり、私立大学の迅速な入試改革情報の公表が社会から強く求められている。80%以上の大学生[大学院生を含む]が学ぶ私立大学こそ、率先して教育的に見識ある基本方針を発信し、高校生が安心して学習に専念できる環境作りに貢献しなければならず、高大接続の改善なども視野に入れながら、明快な入試改革情報の公表にすみやかに取り組む必要がある。

明快な入試改革情報の公表推進

入試改革情報の公表状況調査

(令和3[2021]年度大学入学者選抜に係る予告等)

- I 対象：本連盟会員大学（125大学）
- II 確認時期・方法：令和元年5月上旬現在
- III 確認方法：各大学ウェブサイト閲覧
- IV 結果：**公表済 92大学（73.6%） 未公表 33大学（26.4%）**

2019年5月8日 会員大学宛に調査結果通知

私大連フォーラム2019 教育研究委員会事業報告

13

教育研究委員会事業

②大学入学共通テストに関する課題等の整理

問題提起

- ・定員充足と不合格者増への対応

平成31（2019）年3月

一般社団法人日本私立大学連盟 会長 鎌田 薫

「定員管理に関する意見

－多様で柔軟な教育プログラムを推進する合理的な定員管理－」

2019年5月14日

私大連が定員管理について「学部単位から大学単位へ」等の意見を提出

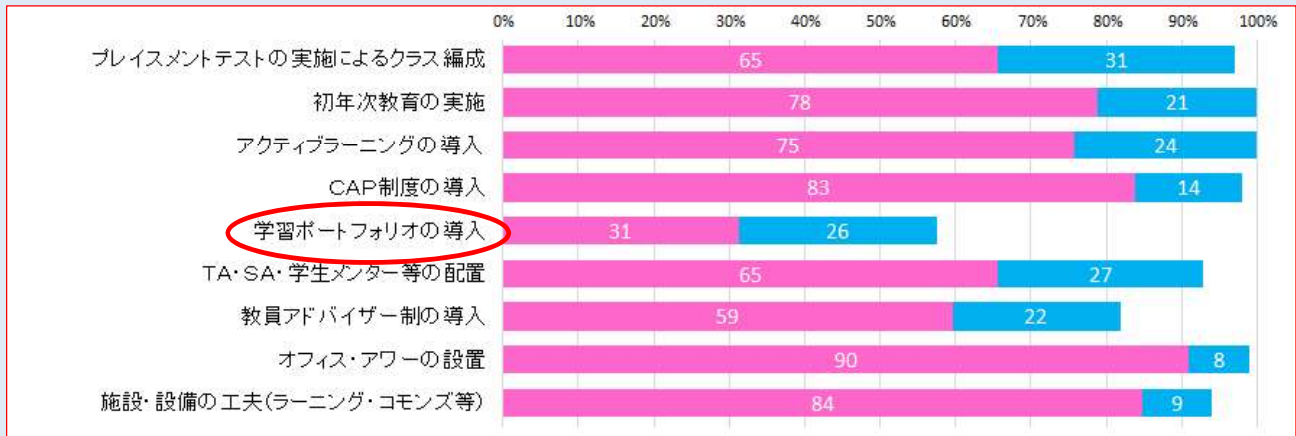
Between情報サイト

<http://between.shinken-ad.co.jp/hu/2019/05/2021shidairen.html>

私大連フォーラム2019 教育研究委員会事業報告

14

教育方法・学習支援 調査結果（抜粋）



新たな課題2

超スマート社会における人間教育の推進

若者の全人格的成長を何よりも願ってきた私立大学にとって、学生の知識・技能だけではなく、主体性・協働性を含む学力の3要素を入口から出口までバランスよく測定することがこれまで以上に強く求められている。開発が順調に進む JAPAN e-Portfolio などの新たなツールを使って、超スマート社会の中でも、若者の豊かな人間性の育成を目指し続ける必要がある。

教育研究委員会事業 ③FD推進ワークショップ（新任専任教員向け）

2018年8月7日～8月10日 グランドホテル浜松（参加者72名）

「FD推進ワークショップ（新任専任教員向け）」は、加盟大学の新任専任教員を対象に、担当正課科目の個別的問題の解決だけでなく、大学教員の職能開発という包括的見地に立って、教育、研究、社会貢献、管理運営といった大学教員の四つの職能を確認し、参加者の協働により、FDに関する見識ある実践的理解を共有することを目的としています。豊かな実績に裏付けられた信頼できるインタラクティブなFDプログラムです。

私立大学の強みを活かす スケールメリット

目的

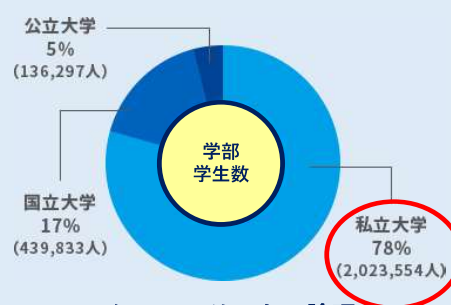
私立大学に対する公財政支援は
財政効率が良いことを説明する

方法①

教育の質向上方を共有し成果を可視化する

方法②

私立大学を支援すれば
多数の学生がその受益者となることを
積極的に社会に発信する



スケールメリットの論理

